

四十二、和田八幡宮の盆綱引

お盆の八月十五日になると、和田八幡宮では「盆綱引」が行われます。この行事は数百年前にから行われてお盆の伝統行事です。かつては子ども達だけの行事でしたが、今では大人も参加し、大人と子どもが一対二の比率で、大人対子どもの綱引きが行われます。その後、みんなでスイカ割りなどをして解散するそうです。

数十年前までこの行事は、子どもたちが中心となり執り行されていました。まず八月十二日に、久山町の山(今の久山カントリー付近)までフジカズラを、そして多々良川までカヤを探りに行きます。

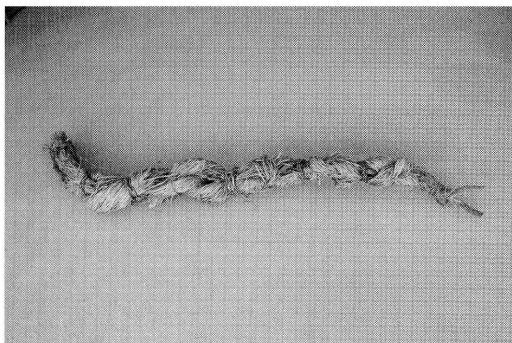
十五日の朝になると和田区の中学二年生までの子どもたちが集まりフジカズラとカヤで、全長二十メートルほどの盆綱を編み上げます。

その日の午後五時頃になると、境内の梵鐘^(ばんしょう)がつかれ「みんなこ〜い!」と呼び出されます。するとどちらともなく和田区の子ども達やお盆で帰郷していた親戚たちも境内に集まり、盆綱を境内下の道路まで運び行事が始まります。

この行事の目的は勝ち負けに關係せず、単に「精靈送り」の行事の一環と言われています。

みんなで綱を引っ張り合い、三回目には鎌で必ず綱を切れます。その後、切られた綱を多々良川まで運び、精靈流しをしたそうです。

今では、盆綱の代わりに運動会の綱を利用し(もちろん鎌で切つたりはしません)、前述したようになつたり、和田区の人と子どもの対抗戦のようになつたり、交通量が増した現在では、境内裏の広場に会場が変わつたりと、時代の流れとともに変化しています。



切られた和田の盆綱